

【下熊谷地区グループ】

下熊谷ふれあい会の 事業の見直し

メンバー:小川馨 小田川憲男 金森憲吉 菅田敦子
田中利幸 長谷川雄二 山根好博

I . 取り組みの概要

1. 背景と動機

■下熊谷ふれあい会の事業の現状と課題(組織内での意見)

- 目的が明確でなく、形骸化している事業がある。
- 各種事業の参加者・運営者が固定化しており、一部の住民に偏っている。(負担の増)
- 地区住民のニーズ把握が十分にできておらず、ニーズに基づいた事業となっていない。(住民の事業への無関心につながっている)
- 各専門部それぞれで事業を計画しており、より重点的に取り組むべき事業分野等が明確になっていない。

2

2. 目的と取組内容

■取組の目的

- 下熊谷ふれあい会における、事業の見直しの仕組み(手法)を立案し、ふれあい会での実践につなげる。

※メンバーは、既存事業の内容を把握している、ふれあい会の副会長、専門部役員、事務局員で構成。



■取組内容

事業の見直しの手法として、以下の取組を試行し検証。

- ①事業シートを活用した事業の見直し検討
- ②地区住民のニーズ把握のためのアンケート調査
⇒実施結果から具体的な手法を立案。

3

Ⅱ．事業シートを活用した 事業の見直し検討

検討の内容

●趣旨

- ・下熊谷ふれあい会の既存事業の現状や課題を確認し、見直しに向けてのポイント等を整理する。

●手法

- ・事業の「目的」「効果」「課題」「今後の展望」「地区計画との関連」等について記入する共通様式(事業シート)を作成。
- ・既存の24の事業について、各事業担当で事業シートをまとめ、これを持ち寄ってメンバー全員で意見交換を実施。

●意見交換の開催状況・内容

11月18日(水) 19:00～21:00	事業シートの作成
11月26日(木) 19:00～21:00	シートを活用した意見交換
12月 1日(火) 19:00～21:00	
12月 9日(水) 19:00～22:00	
12月18日(金) 19:00～21:00	振り返り
1月19日(火) 19:00～21:00	ふれあい会への提案内容検討



検討した事業の一覧

№	事業名	担当部	№	事業名	担当部
①	広報活動 かわら版の発行	総務部	⑬	リサイクル活動	環境 安全部
②	体験活動 しいたけのほだ木づくり		⑭	救命講習	
③	体験活動 味噌づくり体験事業		⑮	消火訓練	
④	下熊谷癒しの森づくり		⑯	交通安全講習・防犯講習	
⑤	ふれあい文化祭	教育 文化部	⑰	ふれあい敬老会	福祉部
⑥	うたの会「このゆびと～まれ」		⑱	中高年の健康づくり教室	
⑦	交流センター子ども週間 (そうめん流し)		⑲	多世代交流事業	
⑧	子ども陶芸教室		⑳	配食サービス委託事業	
⑨	人権講演会		㉑	うんなん幸雲体操	
⑩	ラジオ体操と下熊谷音頭踊り の練習会		㉒	下熊谷交流グラウンドゴルフ 大会	健康 スポーツ部
⑪	ふれあいクリスマス会		㉓	冬場の健康づくり事業 室内グラウンドゴルフ	
⑫	親子ふれあい事業 三世代交流餅つき		㉔	防災活動	防災組織

検討に活用した事業シートの様式

下熊谷ふれあい会 事業シート

事業名		担当の 専門部等		
地区計画 との関連	みんなで守る	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の育成強化 <input type="checkbox"/> 要支援者の地域支援体制づくり	<input type="checkbox"/> 生活環境（通学路、街灯、標識）の整備 <input type="checkbox"/> リサイクル及び環境美化活動の推進	<input type="checkbox"/> 防犯、交通安全啓発運動の推進 <input type="checkbox"/> 休耕地の利活用の促進
	みんなで支え合う	<input type="checkbox"/> 福祉活動、ボランティア活動の支援 <input type="checkbox"/> 健康づくりの支援	<input type="checkbox"/> 独居老人、認知症サポーター支援 <input type="checkbox"/> 地域ぐるみの子育て支援	<input type="checkbox"/> 高齢者支援事業の増進 <input type="checkbox"/> 地域内のネットワークづくり
	みんなで楽しむ	<input type="checkbox"/> 芸術文化、生涯学習の推進 <input type="checkbox"/> スポーツの振興	<input type="checkbox"/> 伝統文化活動の継承と推進	<input type="checkbox"/> 世代間交流の促進
事業の概要		事業の目的・ねらい		
事業の効果		事業を進める上での課題・工夫している点・今後の展望		

各事業の課題・見直しアイデア等(意見の一部)

No	事業名	課題・見直しのアイデア等(意見の一部)
③	体験活動 味噌づくり体験事業	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の目的は、世代間交流の促進だが、参加者は高齢者のみ。目的に沿った事業にするか、目的自体を見直すのか整理が必要。目的の明確化を。 ・保護者世代や子どもの参加を促進。対象はアパート居住者なども考えられる。参加者の募集方法を工夫するべき。子ども会との連携も。
⑤	ふれあい文化祭	<ul style="list-style-type: none"> ・役員だけでなく、幅広い人に企画運営に関わってもらい、住民主体の文化祭にしていく必要がある。他地域では、消防団や青年団等、自主組織の専門部だけでなく、構成団体や外部団体と連携してイベントを実施している例もある。 ・ふれあい会は全般に他の団体との連携が少ない。ふれあい会以外も入った複数団体による実行委員会方式も検討すべき。 ・若い人の出店などを募集すると興味を持つ人もいるのでは。フリーマーケットなどでもできるのでは。自主組織との関わりのきっかけにもなる。
⑬	リサイクル活動	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな収益にはつながっておらず、自主財源の確保は事業目的とは言えない。 ・学校での回収や、ナフコのリサイクルボックスなど、事業開始時にはなかった、事業の代わりとなるものがある。選択肢が増えている。 ・高齢者世帯では、隣近所の方が不要品をナフコに持って行ってあげる場合もあるよう。自分では不用品が出せない人(高齢者等)の支援へ事業内容を変更することもあり得る。見守り、声掛けの要素も入れることができる。
⑳	下熊谷交流グラウンドゴルフ大会	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は健康維持や、多世代交流の目的で開催。健康維持については、年2回の開催では達成できない。参加者は高齢者が大半を占めており、多世代交流にはつながっていない。現状としてはスポーツ振興が目的ということになる。 ・単に大会を実施するだけではなく、体力測定等にも取り組むべきとの意見あり。 ・光フィットネス(正しいウォーキングの仕方)は福祉部で実施したが、健康スポーツ部の領域では。福祉部で扱う領域との整理が必要。

地区計画との関連一覧

地区計画の項目	総務部		教育文化部							環境安全部			福祉部			健康スポーツ部	防災組織	合計									
	①かわら版の発行	②しいたけのほだ木づくり	③味噌づくり体験事業	④下熊谷癒しの森づくり	⑤ふれあい文化祭	⑥うたの会「このゆびとまれ」	⑦子ども週間「そらめん流し」	⑧子ども陶芸教室	⑨人権講演会	⑩ラジオ体操と下熊谷音頭練習	⑪ふれあいクリスマス会	⑫三世代交流餅つき	⑬リサイクル活動	⑭救命講習	⑮消火訓練	⑯交通安全講習・防犯講習	⑰ふれあい敬老会		⑱中・高年の健康づくり教室	⑲多世代交流事業	⑳配食サービス委託事業	㉑うんなん辛豊体操	㉒下熊谷交流GG大会	㉓室内GG	㉔防災活動		
みんなで守る	自主防災組織の育成強化	●											●	●										●	4		
	生活環境(通学路、街灯、標識)の整備	●																								1	
	防犯、交通安全啓発運動の推進	●													●											2	
	要支援者の地域支援体制づくり	●																									1
	リサイクル及び環境美化活動の推進	●											●														2
みんなで支え合う	休耕地の利活用促進	●																								1	
	福祉活動、ボランティア活動の支援	●							●											●						3	
	独居老人、認知症サポーター支援	●																		●						2	
	高齢者支援事業の増進	●															●			●						3	
	健康づくりの支援	●			●		●			●							●		●				●			7	
	地域ぐるみの子育て支援	●	●					●																		3	
みんなで楽しむ	地域内ネットワークづくり	●			●				●											●						4	
	芸術文化、生涯学習の推進	●			●	●		●	●																	5	
	伝統文化活動の継承と推進	●					●	●	●		●															5	
	世代間交流の促進	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							●					●			13	
	スポーツの振興	●																				●	●			3	

事業シートを活用した意見交換の振り返り(気づき・主な意見)

①事業について話し合うことの重要性

- ・これまで事業についてこれほど議論したことはなかった。具体的な見直しのアイデアも出た。有意義だった。結果をまとめて提示し、各部での検討に活かすとよい。
- ・事業シートを活用して、組織内で事業の振り返りや検討の機会を持つことは有効。まずは、各部で事業シートを作って話しあうこと。

②事業目的等の明確化・振り返りの重要性

- ・シートに目的やねらいを記入するのが難しかった。これまで目的を意識せず明確にしていなかったということに気づかされた。
- ・本来は目的から事業を立案すべき。地域の課題からどのような目的の、どのような事業が必要かゼロベースで考えることも必要。
- ・情勢に応じて、目的やねらいが適切かということも含めて、シートで毎年度振り返り、翌年度の展望をシートに記入して、PDCAサイクルを回していくとよい。

③部を横断した協議の必要性

- ・他の専門部の事業を知る機会になった。役

- 員でも事業の内容を知らない人も多い。組織内で事業の目的の共通理解を図ること。
- ・部によって取り組みへの熱意や負担に大きな差がある。部会の開催頻度も大きく異なる。
- ・部の担当業務のバランスを考えることも必要。事業の合わせ技により事業効果を高めたり、負担減を図ることにもつながる。
- ・専門部内での検討機会と、専門部を横断した検討機会の両方があるとよい。
- ・現行の役員会では各事業について突っ込んだ議論をすることは難しい。役員会とは別に、横断的に事業を検証する機会を仕組みとして設けるとよい。人数が多いと意見を出しにくいので、部長で集まる部長会議等を設け、協議すると有効。

④各事業の見直しに当たり共通して意識すべきポイント

- ・すべての事業に共通して、参加者や関係人を増やすための工夫が必要。部員の関わり、若手世代の関わり、自治会の関わり、ふれあい会以外の団体との連携等を検討する必要がある。

10

⑤各事業と地区計画との関連

- ・地区計画の大項目の区分(分野)で見ると、「みんなで楽しむ」に重点が置かれており、「みんなで守る」の取り組みが少ないことが分かる。分野のバランスも考える必要がある。
- ・地区計画に掲げる項目、取組内容も時代に合わせて見直しが必要。
- ・保護者世代やアパート居住者への働きかけなども大きな課題となっているが、地区計画の項目には具体的に上がっていない。地域の担い手の育成確保という観点で、地区計画の目標に「人づくり」といった項目があるとよい。

⑥事業シートの様式についてのアイデア・活用方法

- ・目的やねらいに加えて事業の対象も明記するよい。「事業の対象」の欄を設けると良い。対象者を明確にすると、対象に応じた事業内容が検討しやすく、具体的な事業の工夫につながる。
- ・費用対効果を検証するために予算額も記載するとよい。
- ・長期の目的と短期の目的を分けて記載すべきか。地区計画が長期の目的(5カ年計画)。

- ・「目的」「ねらい」「効果」等の定義を明確にしておくとうい。
- ・シートに次年度工夫する点なども具体的に記載するとよい。
- ・数値目標も示せるとよいが、例えば事業への参加人数が多ければそれでよいというものでもなく、数値化は難しいところもある。
- ・事業シートは、部員や役員の引継ぎにも活用できる。また、事業を知らない若手世代等にも事業の説明をし意見をもらうこともできる

⑦住民ニーズの把握の必要性

- ・事業シートで、既存事業の見直しは検討できるが、そもそも、どのような課題に対する事業が必要とされているか、優先度を含め地区住民のニーズを把握することが必要。
- ・ニーズ把握のためには、住民アンケートの実施が有効。
- ・地区計画策定時のアンケートの内容も検討の必要がある。前回アンケートは主に、既存事業への参加の有無などを聞いた。必要とされている取り組みの調査も必要。
- ・他地域で実施されている分野ごとの重要度満足度調査を部員以上を対象に試行してみるとよい。

11

事業の見直しに当たって必要なこと(検討のまとめ)

- 事業の目的やねらいを明確にすること。
- 毎年度、事業の振り返りを行い、事業内容について議論する機会を慣習化し、次年度の事業に反映していくこと。
- 部を横断した協議の場も設けること。(事業についての共通理解を図るとともに、取り組み分野、負担のバランス等にも配慮。)
- 上記を実施するために、事業シートの作成やシートを活用した意見交換は非常に有効。(事業シートは、役員交代時の引継ぎ等にも活用できる。)
- 各種事業の見直しに当たっては、すべての事業に共通して、「担い手の確保(事業に関わる人を広げる)」という観点での検討が必要。
…担い手例)部員、保護者等の若手世代、自治会、各種団体等
- 長期目標として地区計画は重要。アンケート等により、地区住民のニーズを反映した計画を策定し、計画に基づき事業を立案すること。(ニーズの反映は担い手の確保にもつながる。)

12

下熊谷ふれあい会への提案内容

【提案①】事業シートを活用した事業の振り返りの慣習化

- 下熊谷ふれあい会のすべての事業について、共通様式の事業シートを作成する。⇒※シートの様式案は次頁のとおり
- このシートを活用して、専門部やふれあい会全体で、毎年度、事業の振り返りを行い、結果を次年度の事業計画に反映する。

【事業シートを活用した振り返りと事業計画立案の手順】

<年度末>

- ①各専門部で部会を開催し、当該年度の事業の振り返りを行い、次年度へ向けての見直し案や工夫すべき点を検討。年度末時点での、次年度の事業計画を立案する。
- ②各部長等の出席による事業の振り返り会を開催し、事業シートを持ち寄って、部を横断した連携の可能性等についての協議する。

<年度当初>

- ③各専門部で部会を開催し、前年度末の検討結果を元に、事業計画案を確認する。(必要に応じて事業シートを更新)
- ④事業シートをもとに、役員会で事業計画案を協議し、評議員会へ提案。

13

事業シートの様式案

令和2年度 下熊谷ふれあい会 事業シート		令和3年度 下熊谷ふれあい会 事業シート	
事業名： _____		担当の専門部： _____	
令和2年度の計画			
地区計画との関連	みんなで守る	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の育成強化 <input type="checkbox"/> 防犯、交通安全啓発運動の推進 <input type="checkbox"/> リサイクル及び環境美化活動の推進	<input type="checkbox"/> 生活環境（通学路、街灯、標識）の整備 <input type="checkbox"/> 要支援者の地域支援体制づくり <input type="checkbox"/> 休耕地の利活用の促進
	みんなで支え合う	<input type="checkbox"/> 福祉活動、ボランティア活動の支援 <input type="checkbox"/> 高齢者支援事業の増進 <input type="checkbox"/> 地域ぐるみの子育て支援	<input type="checkbox"/> 独居老人、認知症サポーター支援 <input type="checkbox"/> 健康づくりの支援 <input type="checkbox"/> 地域内のネットワークづくり
	みんなで楽しむ	<input type="checkbox"/> 芸術文化、生涯学習の推進 <input type="checkbox"/> 世代間交流の促進	<input type="checkbox"/> 伝統文化活動の継承と推進 <input type="checkbox"/> スポーツの振興
事業の目的・ねらい・対象		事業計画	期待する効果
		予算額 _____ 円	
令和2年度の振り返り			
事業の実績		成果・課題・今後の展望	
決算額 _____ 円		次年度へ向けての方針（見直し案・工夫すべき点等）	
令和3年度の計画			
地区計画との関連	みんなで守る	<input type="checkbox"/> 自主防災組織の育成強化 <input type="checkbox"/> 防犯、交通安全啓発運動の推進 <input type="checkbox"/> リサイクル及び環境美化活動の推進	<input type="checkbox"/> 生活環境（通学路、街灯、標識）の整備 <input type="checkbox"/> 要支援者の地域支援体制づくり <input type="checkbox"/> 休耕地の利活用の促進
	みんなで支え合う	<input type="checkbox"/> 福祉活動、ボランティア活動の支援 <input type="checkbox"/> 高齢者支援事業の増進 <input type="checkbox"/> 地域ぐるみの子育て支援	<input type="checkbox"/> 独居老人、認知症サポーター支援 <input type="checkbox"/> 健康づくりの支援 <input type="checkbox"/> 地域内のネットワークづくり
	みんなで楽しむ	<input type="checkbox"/> 芸術文化、生涯学習の推進 <input type="checkbox"/> 世代間交流の促進	<input type="checkbox"/> 伝統文化活動の継承と推進 <input type="checkbox"/> スポーツの振興
事業の目的・ねらい・対象		事業計画	期待する効果
		予算額 _____ 円	
令和3年度の振り返り			
事業の実績		成果・課題・今後の展望	
決算額 _____ 円		次年度へ向けての方針（見直し案・工夫すべき点等）	
①年度末の部会で協議し記入 ②持ち寄って専門部長会議で協議 ③計画は年度当初の部会で再確認			

14

【提案②】住民へのアンケート調査の実施

- 地区住民のニーズに基づいた事業を実施していくために、定期的に、事業に関する住民へのアンケート調査を実施し、新規事業の立案、既存事業の見直しの検討材料とする。
- 調査対象は、下熊谷地区の中学生以上の全住民、実施時期は、地区計画の更新時を想定。（5年に1回程度）
- アンケートの内容は、他地域でも取り組まれている、「重要度・満足度調査」が有効と考えられるため、地域経営カレッジの取り組みの中で、ふれあい会の役員・職員・部員を対象に試行して、検証する。

【重要度・満足度調査】

- ・現在取り組んでいる事業や今後取り組むべき事業分野それぞれについて、どの程度重要と考え、かつ、現在の取り組みにどの程度満足しているかを問うアンケート調査。
- ・一般的に、「重要度は高いが満足度の低い事業分野」が、今後取り組みを強化することが必要な分野と考えられる。

中間報告での提案

■下熊谷ふれあい会への中間報告

日時:令和3年1月26日(火)19:15~19:50

会場:下熊谷交流センター

出席者:下熊谷ふれあい会役職員 計21名

※下熊谷ふれあい会役員会の中で報告



【報告・提案内容】

- ▶事業シートを活用した事業の見直しの検討結果報告
- ▶事業シートを活用した事業の振り返りの慣習化案の提案
- ▶役員・職員・部員へのアンケート調査(試行)実施の提案

【確認事項】

- 事業シートを活用した振り返りについては、令和2年度末から試行実施。
→令和3年2月中に各専門部でシートを作成し、3月に部長会議を開催
⇒3月12日に部長会開催
- アンケート調査(試行)については、2月10日を回答締切として取り組む

Ⅲ. 地区住民へのアンケート調査試行

アンケート(試行版)の内容

■アンケート企画

- 調査目的 下熊谷ふれあい会の事業の見直しの手法を検討する材料とするため(全住民対象の住民ニーズ把握のためのアンケート調査の試行)
- 調査対象 下熊谷ふれあい会役職員・専門部部員 計91名
- 調査内容 下熊谷ふれあい会の各種事業や今後取り組むべき事業項目について、地域の活動としての重要度と満足度を問う意識調査
- 調査時期 令和3年1月26日(火)～2月10日(水)
- 発送方法 各専門部部長・副部長から部員へ配布
- 回収方法 回答者それぞれで下熊谷交流センターへ提出(郵便受けへの投函も可)
- 結果報告 調査結果をまとめて3月末までに調査対象者へ報告する

アンケート調査票

下熊谷ふれあい会の事業に関するアンケート調査

- I. あなたご自身とあなたの世帯について教えてください。
- (1) あなたの年齢層について、当てはまる番号1つに○をつけてください。
 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代
 7. 70代 8. 80代以上
- (2) あなたの性別について、当てはまる番号1つに○をつけてください。
 1. 男性 2. 女性
- (3) あなたの所属する自治会について、当てはまる番号1つに○をつけてください。
 1. 上1 2. 上2 3. 上3 4. 夢が丘 5. 下1 6. 下2
 7. 下3 8. 下4 9. 市営住宅 10. 県職員住宅 11. その他
- (4) あなたが下熊谷地区に居住している期間について、当てはまる番号1つに○をつけ、()内に合計の居住年数を記入してください。
 1. 生まれてからずっと下熊谷地区に住んでいる ()年
 2. 下熊谷で生まれたが一時地区外に転居し、Uターン等で帰ってきた ()年
 3. 仕事や結婚などで下熊谷地区に転入した ()年
- (5) あなたの職業について、当てはまる番号1つに○をつけてください。
 1. 農林業 2. 会社員・公務員・団体職員 3. 自営業
 4. パート・アルバイト 5. 学生 6. 無職
- (6) あなたの世帯の構成について、当てはまる番号1つに○をつけてください。
 1. 単身(1人暮らし) 2. 夫婦(2人暮らし) 3. 親子(2世代)
 4. 親子(3世代) 5. 親子(4世代) 6. その他
- (7) あなたの世帯には、あなた以外に、18歳以下の同居する家族がいますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。
 1. いる 2. いない
- (8) 上記(7)で、「1. いる」とお答えの場合、18歳以下の同居家族の年代について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。
 1. 未就園児 2. 幼稚園児・保育園児 3. 小学生 4. 中学生
 5. 高校生 6. その他

II. 下熊谷ふれあい会や自治会等が、現在取り組んでいるまたは今後取り組むべき活動項目について、あなたは、どの程度重要と考え、また、現在の取り組みにどの程度満足していますか。記入例を参考に、下記の活動項目それぞれについて、あなたが考える重要度と満足度の当てはまる欄に○をつけてください。

活動項目	重要度 地域の活動としてどの程度重要と考えるか					満足度 現在の活動にどの程度満足しているか				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない
例 避難訓練や有事の連絡体制整備などの防災活動	○									○
例 見回り、街灯・標識の整備など、防犯・交通安全活動		○				○				
1 避難訓練や有事の連絡体制整備などの防災活動										
2 見回り、街灯・標識の整備など、防犯・交通安全活動										
3 防火・救命講習などの消防活動										
4 草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理										
5 公園などの維持管理										
6 花の植栽・側溝清掃など、環境美化・保全活動										
7 敬老会など、主に高齢者対象の行事										
8 健康体操・健康教室などの健康づくり活動										
9 寄り合い、サロンなどの高齢者の生きがいづくり活動										

活動項目	重要度 地域の活動としての程度 重要と考えるか					満足度 現在の活動にどの程度満足 しているか				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない
※網掛け部分は、項目に関連し、下熊谷ふれあい会や自治会等で現在実施している主な事業（下熊谷ふれあい会の事業概要は別紙事業一覧参照。番号は事業一覧と対応）										
10 高齢者等の見守り・生活支援活動 ⑥配食サービス委託事業										
11 買物・通院などの移動支援活動										
12 子ども会、クリスマス会など、主に子どもを対象とした行事 ⑪ふれあいクリスマス会										
13 子どもを対象とした体験事業 ②しいたけのほだ木づくり ⑦交流センター子ども週間（そうめん流し） ⑧子ども陶芸教室 ⑫親子ふれあい事業 三世代餅つき										
14 夏休みや放課後の子どもの居場所 ⑦交流センター子ども週間（そうめん流し）										
15 夏休みや放課後の子どもの学習支援										
16 子育てに関する相談ができる場づくり										
17 子育て世代が交流できる場づくり ②しいたけのほだ木づくり										
18 登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 ※子ども見守り隊による登下校の見守り										
19 地域内の交流を促進するためのイベント ⑤ふれあい文化祭										
20 地域内の世代間の交流を促進するための活動 ③体験活動 味噌づくり体験事業 ⑦交流センター子ども週間（そうめん流し） ⑫親子ふれあい事業 三世代餅つき ⑬多世代交流事業										
21 地域の担い手の確保、若手世代の地域活動への参画促進に向けた活動 ②しいたけのほだ木づくり ⑬多世代交流事業										

3

活動項目	重要度 地域の活動としての程度 重要と考えるか					満足度 現在の活動にどの程度満足 しているか				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない
※網掛け部分は、項目に関連し、下熊谷ふれあい会や自治会等で現在実施している主な事業（下熊谷ふれあい会の事業概要は別紙事業一覧参照。番号は事業一覧と対応）										
22 自治会や下熊谷ふれあい会への未加入者に対する加入促進のための取り組み										
23 隣近所の付き合いを深める ※常会等各自治会活動										
24 人権意識の醸成 ⑨人権講演会										
25 地域の伝統文化・芸能の継承活動 ⑩ラジオ体操と下熊谷音頭踊りの練習会 ※下熊谷音頭保存会の活動										
26 史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 ④下熊谷癒しの森づくり										
27 サークル・教室など、芸術文化・生涯学習関連の活動 ⑤ふれあい文化祭 ⑥うたの会「このゆびと～まれ」										
28 サークル・教室など、地域内のスポーツ活動										
29 地区内でのスポーツ大会 ②下熊谷グラウンドゴルフ大会 ③冬場の健康づくり事業 室内が「ラウド」の										
30 休耕地の利活用、農地・森林などの維持管理										
31 散策、収穫体験など、地域の魅力を体験する活動 ②しいたけのほだ木づくり ④下熊谷癒しの森づくり ⑦交流センター子ども週間（そうめん流し） ⑧子ども陶芸教室										
32 特産品の開発など、地域の産物を販売する収益活動										
33 空き家の管理や利活用など、定住者の受入活動										
34 婚活イベントなどの結婚対策										
35 広報紙の発行 ①広報活動 かわら版の発行										

4

活動項目	重要度 地域の活動としての程度 重要と考えるか					満足度 現在の活動にどの程度満足 しているか				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	重要である	やや重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	満足している	やや満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない
※網掛け部分は、項目に関連し、下熊谷ふれあい会や自治会等で現在実施している主な事業（下熊谷ふれあい会の事業概要は別紙事業一覧参照。番号は事業一覧と対応）										
36 電子メールやSNSを活用した住民向けの広報・連絡										
37 ブログやホームページ、SNSを活用した住民以外への広報										

Ⅲ. 下熊谷ふれあい会の事業全般についてご意見等がありましたらご記入ください。

Ⅳ. 今後このようなアンケートを、全地区民を対象に実施しようと考えています。アンケート内容の改良に活かしたいと思っておりますので、本アンケートに回答して頂いてのご感想やご意見をご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

本調査票は、2月10日（水）までに、下熊谷交流センターへご提出ください
（郵便受けへの投函も可）

3

下熊谷ふれあい会事業一覧

No.	事業名	事業概要
①	広報活動 かわら版の発行	・下熊谷ふれあい会の広報誌。 ・概ね月1回、年11回発行。 ・ふれあい会の行事の報告や案内、地区の話題や各自治会での活動等を紹介。
②	体験活動 しいたけのほど木づくり	・地域の人、保護者と子どもたちでほど木にしいたけ菌植え付け栽培。 ・しいたけはどのようにできるのか育て方を学習し体験する。 ・できたしいたけの活用方法を保護者や子ども達で考え企画運営。
③	体験活動 味噌づくり体験事業	・世代間や地域交流の促進を目的に、参加者を募り、味噌づくりを実施。 ・温泉の加工施設で米蒸し、麹づけ、米麹の切り返し、梅詰めを行う。できた味噌を販売（約350個） ・味噌づくりの合間の時間を利用して豆腐作りを実施 ・年4日の作業
④	下熊谷癒しの森づくり	・烏帽子山、大仏さんへの遊歩道を整備し、ハイキングなどを行うことで健康づくりや世代間交流を図る。
⑤	ふれあい文化祭	・例年10月に交流センターを会場に開催。 ・地元住民の芸能発表、作品展等を実施。
⑥	うたの会「このゆびと～まれ」	・地区内の希望者が誰でも参加できる歌の会。 ・講師の生演奏により歌いながら歌唱や発声方法の指導を受け健康維持につなげる。 ・毎月第3金曜日の日中10時から1時間程度開催。
⑦	交流センター子ども週間（そうめん流し）	・夏休みの3日間を使って、子ども達が、保護者や地域の人と一緒にそうめん流しを、準備から片付けまで行う。(①山での竹切、②台や竹の器、著作③そうめん流し当日の準備) ・ノコギリの使い方を地域の人から学ぶとともに、子どもたちの規範意識を育てる。
⑧	子ども陶芸教室	・夏休みに希望する子どもたちが、地元の窯元（御門屋窯）の講師の指導を受け、陶器をつくる。 ・小学生30名程度が参加。 ・夏休みの作品として学校に提出する子どももいる。
⑨	人権講演会	・年1回講師を招き基本的な人権に関する講演会を開催。 ・対象は大人。参加者は30名程度。
⑩	ラジオ体操と下熊谷音頭踊りの練習会	・夏休みの朝のラジオ体操に合わせて、子ども達を主な対象に、下熊谷音頭の踊りを練習する。 ・7月と8月に一回ずつ開催。 ・下熊谷音頭保存会との共催事業。
⑪	ふれあいクリスマス会	・小学生以下の児童・親子を対象に参加者を募り開催。 ・アトラクションを見て、ケーキを食べ、プレゼントを渡す。 ・事前に子どもたちでリースやツリーづくりなども行う。 ・例年70～80名が参加
⑫	親子ふれあい事業 三世代餅つき	・正月明けに杵と臼での餅つきを子どもたちや保護者が地域の人たちに教えてもらいながら体験をする。 ・参加した子どもたちでグループを作り、上級生がリーダーとなり取り組む。 ・保護者を含め参加者80名程度

No.	事業名	事業概要
⑬	リサイクル活動	・各家庭で不要となったダンボール、新聞紙、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、本を回収。 ・交流センターへの持ち込み方式で年4回実施。 ・回収した不用品は業者へ買い取ってもらう。
⑭	救命講習	・参加者を募り、雲南消防署を講師に、救命処置（胸骨圧迫の仕方、AEDの使い方等）を学ぶ。 ・年1回開催。半日の講習。
⑮	消火訓練	・消火器の操作訓練を実施。 ・年1回、グラウンドゴルフ大会の成績集計時間に実施。 ・参加者70名程度。
⑯	交通安全講習・防犯講習	・雲南警察署を講師に、交通安全と防犯の講習会を開催。 ・交通安全教室と特殊詐欺のセットで毎年1回実施。 ・対象は主に高齢者。参加者15名程度。 ・老人クラブと共催で開催。
⑰	ふれあい敬老会	・地区内の高齢者（数え年80歳以上）を対象に年1回開催。 ・記念品の贈呈、アトラクション、昼食など。 ・参加は希望制。例年対象者の3割程度が参加。
⑱	中高年の健康づくり教室	・中高年を対象とした連続の健康づくり教室。 ・5月～12月の期間、毎月第2火曜日の午前中に2時間程度定期開催。 ・脳卒中、高血圧、癌などの予防に関する講義、グループワークでの意見交換、地域運動指導員の指導による軽運動等を実施。 ・例年延べ100名程度が参加。
⑲	多世代交流事業	・地区内の自治会やグループが実施する、高齢者から子どもまで参加の多世代間交流事業に対して助成金を交付。 ・1件あたり15,000円を上限。（予算上4～5件を想定） ・募集要項で申請を受け付け審査を行い採択の可否を決定。
⑳	配食サービス委託事業	・社会福祉協議会との委託契約に基づき、見守りが必要な概ね65歳以上の高齢者世帯等に配食による定期的な訪問（見守り）を実施。 ・現在の利用者は1名。毎週、月、水、金曜日に配達。
㉑	うんなん幸雲体操	・介護予防を目的とした重りを使った筋力運動。 ・週1回2会場で開催。歌に合わせて1時間程度体操を行う。 ・定期的に保健師等の体力測定を受け効果を検証。 ・実施場所 ①下熊谷上公会所 毎週木曜日10時～11時 ②下熊谷交流センター 毎週木曜日19時～20時
㉒	下熊谷グラウンドゴルフ大会	・春と秋の2回、午前中、下熊谷地区民を対象に開催。 ・それぞれ、70名程度が参加。 ・全地区民を対象としているが高齢者の参加が多い。
㉓	冬場の健康づくり事業 室内グラウンドゴルフ	・12月から3月の第3日曜日に体育館で室内グラウンドゴルフを実施。（計4回実施） ・各月の得点で3月に優勝者を決定。 ・延べ80名程度が参加。
㉔	防災活動	・防災組織を令和2年度に設立。 ・今後、防災知識の普及啓発、防災訓練の実施、防災資器材の整備等に取り組む

重要度・満足度アンケート調査 分析の手順

重要度・満足度アンケート調査

：重点的に取り組む事業分野を割り出すのに有効。年齢層等属性ごとのニーズの違いなども分析することができる。

①回答者が、37個の事業項目について、重要度・満足度をそれぞれ5段階で評価

重要度：重要・やや重要・どちらともいえない・あまり重要でない・重要でない

満足度：満足・やや満足・どちらともいえない・あまり満足していない・満足していない

※各項目に関連した下熊谷ふれあい会や自治会での事業を網掛けで記載

（添付資料にて事業概要を解説）

②回答結果から、各項目の回答者数を回答率に換算

※年代や性別など属性ごとに回答者数が異なっても比較しやすいように

【例】

重要度(回答者数)					
重要	やや重要	いえない	どちらとも	でない	あまり重要でない
10	30	5	15	5	

回答者計:65



重要度(回答率%)					
重要	やや重要	いえない	どちらとも	でない	あまり重要でない
15	46	8	23	8	

↑ 10/65 × 100

③回答者全体として、各項目について、どの程度重要・満足と考えているか傾向を掴むために、「重要度率」「満足度率」を算出

重要度率=(重要+やや重要)÷(あまり重要でない+重要でない)

満足度率=(満足+やや満足)÷(あまり満足していない+満足していない)

※数値が高いほど、相対的に、重要あるいは満足していると捉えられている

④一般的に、「重要と考えているが、満足していない事業分野」が、今後、取り組みを強化することが必要な分野と考えられるため、以下の計算式で算定。

満足度率－重要度率

※数値が低い(マイナスの数値が高い)事業分野ほど、今後重点的な取り組みが必要と考えられる。

【例】

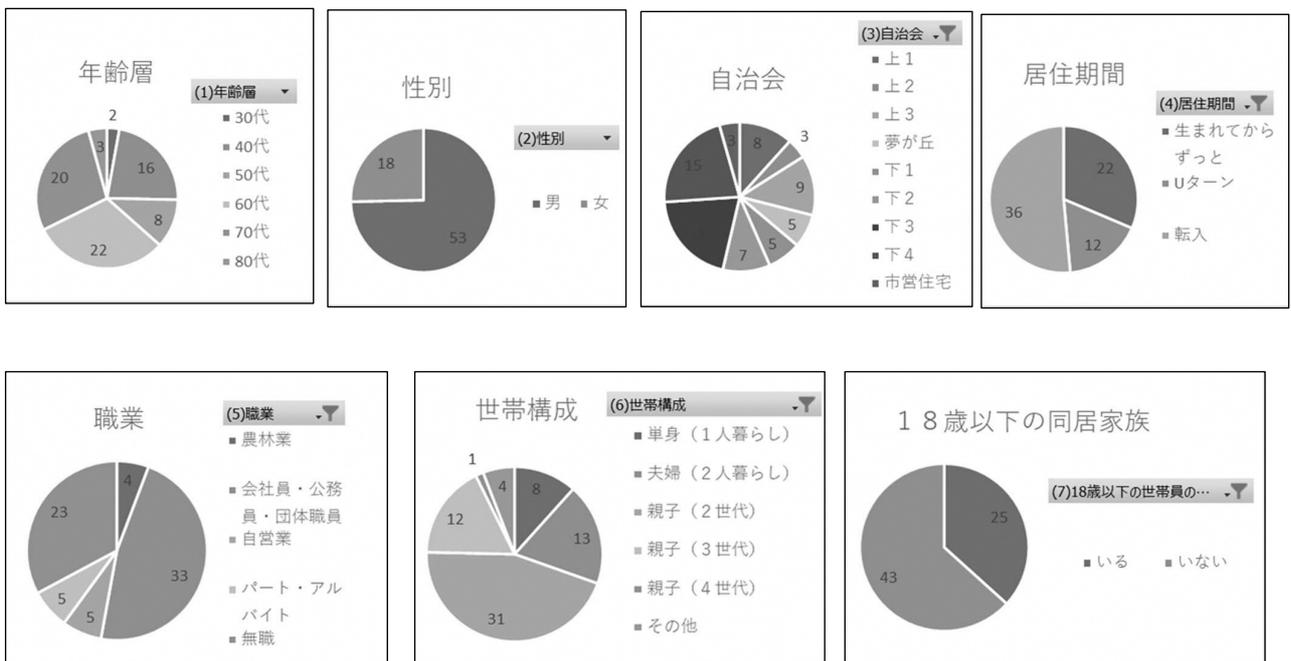
事業分野	重要度						満足度						B-A
	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	A重要度率	満足	やや満足	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	B満足度率	
防災活動	62	31	4	2	1	90	11	22	42	18	7	8	-82
婚活対策	10	28	48	8	6	24	0	3	70	17	10	-24	0
広報紙の発行	34	45	16	4	1	74	29	36	28	6	1	58	-16

24

重要度・満足度アンケート調査結果

回収率:78%(71/91名)

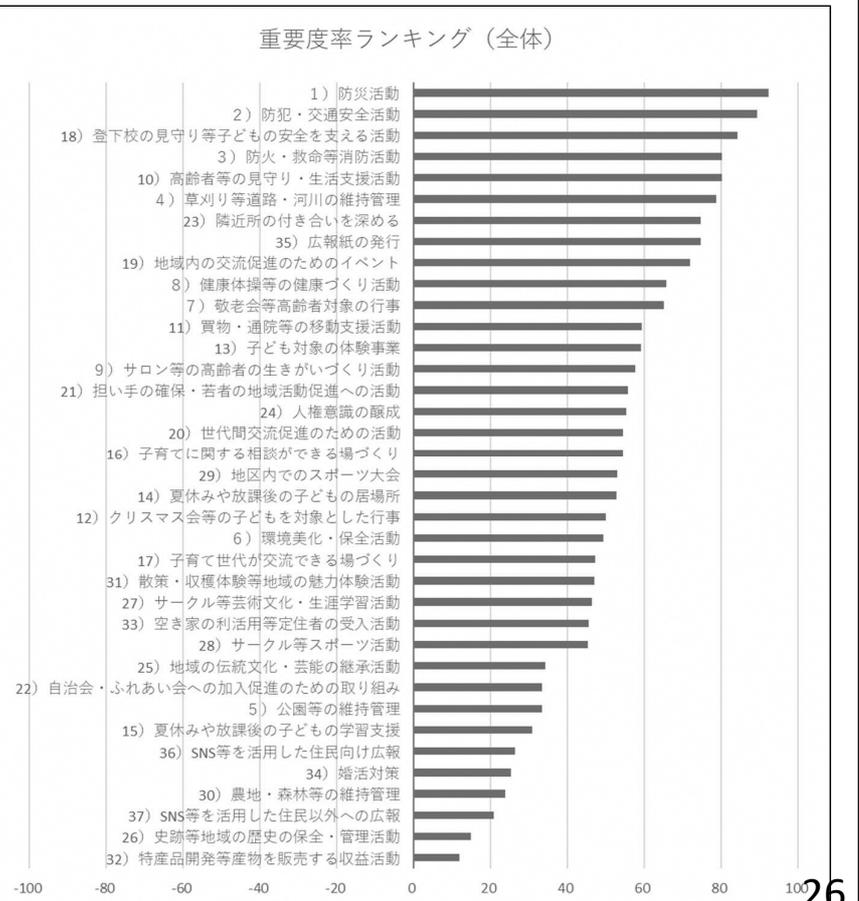
①属性



25

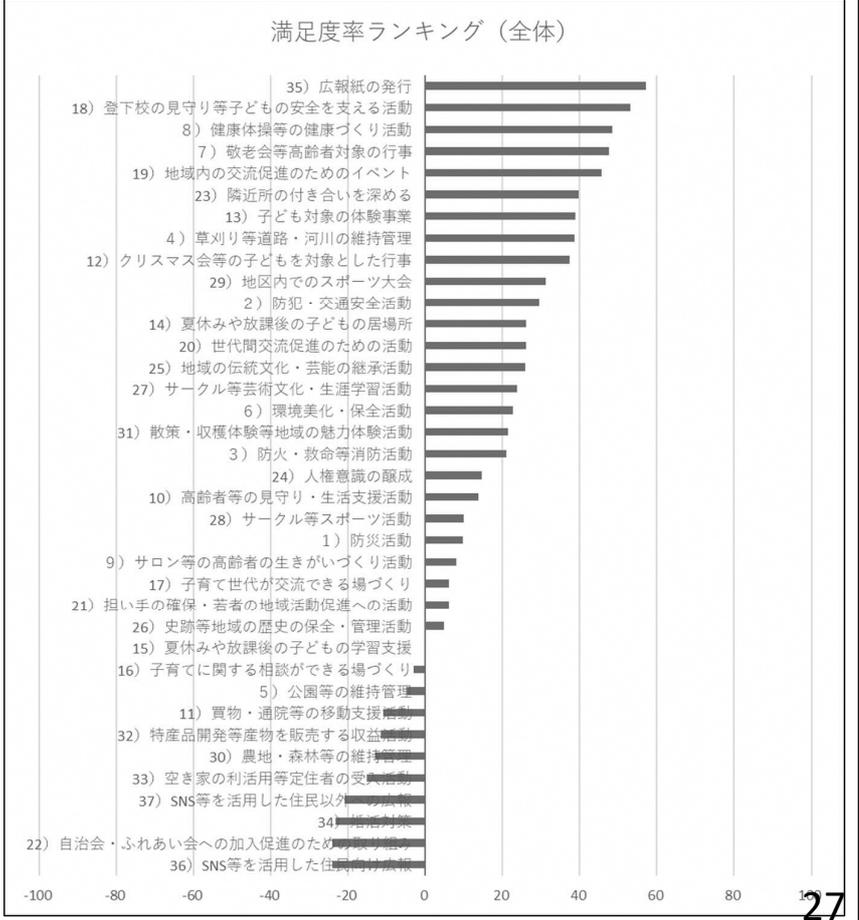
②重要度率ランキング(全体)

全体	
1) 防災活動	92
2) 防犯・交通安全活動	89
18) 登下校の見守り等子どもの安全を支える活動	84
3) 防火・救命等消防活動	80
10) 高齢者等の見守り・生活支援活動	80
4) 草刈り等道路・河川の維持管理	79
23) 隣近所の付き合いを深める	75
35) 広報紙の発行	75
19) 地域内の交流促進のためのイベント	72
8) 健康体操等の健康づくり活動	66
7) 敬老会等高齢者対象の行事	65
11) 買物・通院等の移動支援活動	59
13) 子ども対象の体験事業	59
9) サロン等の高齢者の生きがいづくり活動	58
21) 担い手の確保・若者の地域活動促進への活動	56
24) 人権意識の醸成	55
20) 世代間交流促進のための活動	54
16) 子育てに関する相談ができる場づくり	54
29) 地区内でのスポーツ大会	53
14) 夏休みや放課後の子どもの居場所	53
12) クリスマス会等の子どもを対象とした行事	50
6) 環境美化・保全活動	49
17) 子育て世代が交流できる場づくり	47
31) 散策・収穫体験等地域の魅力体験活動	47
27) サークル等芸術文化・生涯学習活動	46
33) 空き家の利活用等定住者の受入活動	45
28) サークル等スポーツ活動	45
25) 地域の伝統文化・芸能の継承活動	34
22) 自治会・ふれあい会への加入促進のための取り組み	33
5) 公園等の維持管理	33
15) 夏休みや放課後の子どもの学習支援	31
36) SNS等を活用した住民向け広報	26
34) 婚活対策	25
30) 農地・森林等の維持管理	24
37) SNS等を活用した住民以外への広報	21
26) 史跡等地域の歴史の保全・管理活動	15
32) 特産品開発等産物を販売する収益活動	12



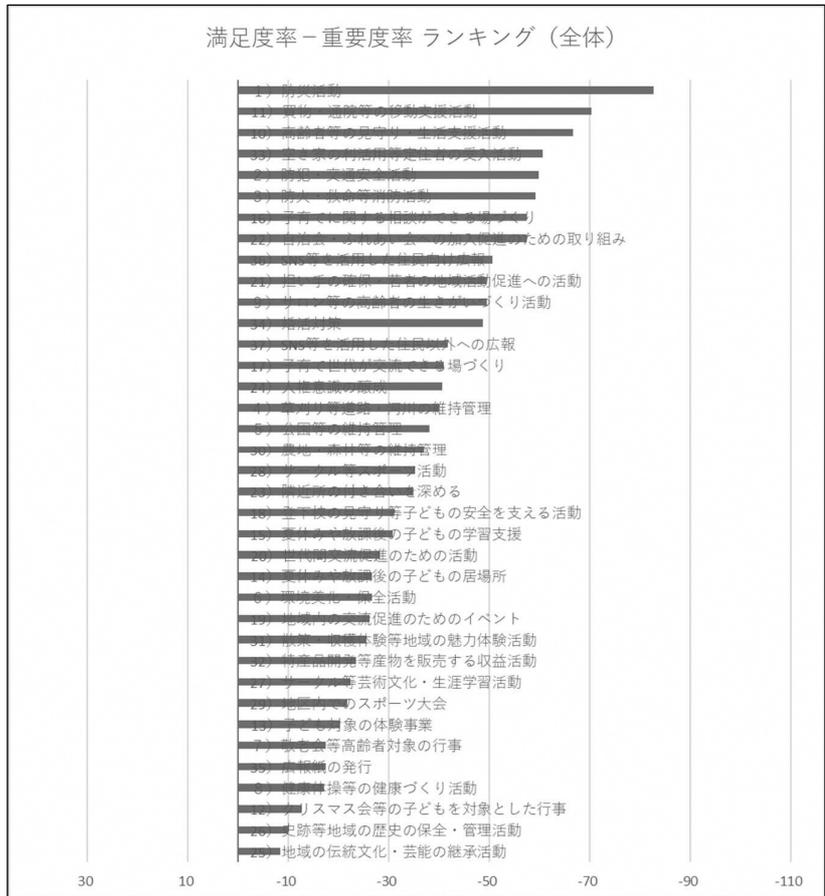
③満足度率ランキング(全体)

全体	
35) 広報紙の発行	57
18) 登下校の見守り等子どもの安全を支える活動	53
8) 健康体操等の健康づくり活動	48
7) 敬老会等高齢者対象の行事	48
19) 地域内の交流促進のためのイベント	46
23) 隣近所の付き合いを深める	40
13) 子ども対象の体験事業	39
4) 草刈り等道路・河川の維持管理	39
12) クリスマス会等の子どもを対象とした行事	37
29) 地区内でのスポーツ大会	31
2) 防犯・交通安全活動	30
14) 夏休みや放課後の子どもの居場所	26
20) 世代間交流促進のための活動	26
25) 地域の伝統文化・芸能の継承活動	26
27) サークル等芸術文化・生涯学習活動	24
6) 環境美化・保全活動	23
31) 散策・収穫体験等地域の魅力体験活動	21
3) 防火・救命等消防活動	21
24) 人権意識の醸成	15
10) 高齢者等の見守り・生活支援活動	14
28) サークル等スポーツ活動	10
1) 防災活動	10
9) サロン等の高齢者の生きがいづくり活動	8
17) 子育て世代が交流できる場づくり	6
21) 担い手の確保・若者の地域活動促進への活動	6
26) 史跡等地域の歴史の保全・管理活動	5
15) 夏休みや放課後の子どもの学習支援	0
16) 子育てに関する相談ができる場づくり	-3
5) 公園等の維持管理	-5
11) 買物・通院等の移動支援活動	-11
32) 特産品開発等産物を販売する収益活動	-12
30) 農地・森林等の維持管理	-13
33) 空き家の利活用等定住者の受入活動	-15
37) SNS等を活用した住民以外への広報	-21
34) 婚活対策	-23
22) 自治会・ふれあい会への加入促進のための取り組み	-24
36) SNS等を活用した住民向け広報	-24



④-1 満足度率-重要度率ランキング(全体)

全体	
1) 防災活動	-83
11) 買物・通院等の移動支援活動	-70
10) 高齢者等の見守り・生活支援活動	-67
33) 空き家の利活用等定住者の受入活動	-61
2) 防犯・交通安全活動	-60
3) 防火・救命等消防活動	-59
16) 子育てに関する相談ができる場づくり	-58
22) 自治会・ふれあい会への加入促進のための取り組み	-58
36) SNS等を活用した住民向け広報	-51
21) 担い手の確保・若者の地域活動促進への活動	-50
9) サロン等の高齢者の生きがいづくり活動	-50
34) 婚活対策	-49
37) SNS等を活用した住民以外への広報	-42
17) 子育て世代が交流できる場づくり	-41
24) 人権意識の醸成	-41
4) 草刈り等道路・河川の維持管理	-40
5) 公園等の維持管理	-38
30) 農地・森林等の維持管理	-37
28) サークル等スポーツ活動	-35
23) 隣近所の付き合いを深める	-35
18) 昼下校の見守り等子どもの安全を支える活動	-31
15) 夏休みや放課後の子どもの学習支援	-31
20) 世代間交流促進のための活動	-28
14) 夏休みや放課後の子どもの居場所	-27
6) 環境美化・保全活動	-27
19) 地域内の交流促進のためのイベント	-26
31) 散策・収穫体験等地域の魅力体験活動	-26
32) 特産品開発等産物を販売する収益活動	-24
27) サークル等芸術文化・生涯学習活動	-22
29) 地区内でのスポーツ大会	-22
13) 子ども対象の体験事業	-20
7) 敬老会等高齢者対象の行事	-18
35) 広報紙の発行	-17
8) 健康体操等の健康づくり活動	-17
12) クリスマス会等の子どもを対象とした行事	-13
26) 史跡等地域の歴史の保全・管理活動	-10
25) 地域の伝統文化・芸能の継承活動	-9



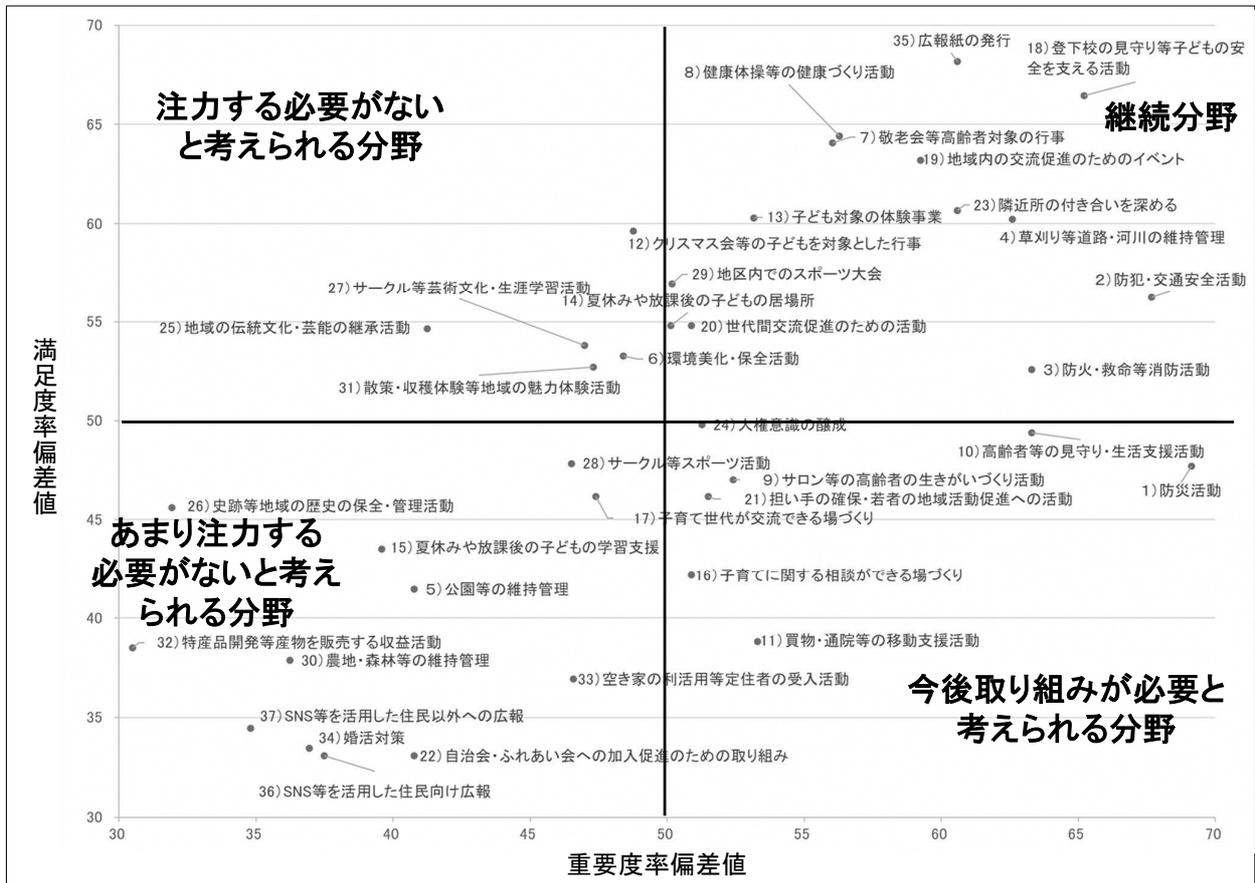
※数値が低いほど「重要度は高いが取組に満足できていない分野」⇒重点的な取組が求められる分野

④-2 満足度率-重要度率ランキング(年代別一覽)

全体	30-40代	50代	60代	70代以上					
1) 防災活動	-83	11) 買物・通院等の移動支援活動	-72	1) 防災活動	-88	1) 防災活動	-103	22) 自治会・ふれあい会への加入促進のための取り組み	-107
11) 買物・通院等の移動支援活動	-70	10) 高齢者等の見守り・生活支援活動	-59	3) 防火・救命等消防活動	-88	36) SNS等を活用した住民向け広報	-90	1) 防災活動	-88
10) 高齢者等の見守り・生活支援活動	-67	16) 子育てに関する相談ができる場づくり	-55	10) 高齢者等の見守り・生活支援活動	-88	2) 防犯・交通安全活動	-80	33) 空き家の利活用等定住者の受入活動	-80
33) 空き家の利活用等定住者の受入活動	-61	1) 防災活動	-48	11) 買物・通院等の移動支援活動	-88	3) 防火・救命等消防活動	-75	34) 婚活対策	-72
2) 防犯・交通安全活動	-60	33) 空き家の利活用等定住者の受入活動	-47	15) 夏休みや放課後の子どもの学習支援	-63	10) 高齢者等の見守り・生活支援活動	-73	2) 防犯・交通安全活動	-70
3) 防火・救命等消防活動	-59	3) 防火・救命等消防活動	-42	16) 子育てに関する相談ができる場づくり	-63	37) SNS等を活用した住民以外への広報	-70	11) 買物・通院等の移動支援活動	-67
16) 子育てに関する相談ができる場づくり	-58	9) サロン等の高齢者の生きがいづくり活動	-38	21) 担い手の確保・若者の地域活動促進への活動	-63	22) 自治会・ふれあい会への加入促進のための取り組み	-67	21) 担い手の確保・若者の地域活動促進への活動	-62
22) 自治会・ふれあい会への加入促進のための取り組み	-58	5) 公園等の維持管理	-33	36) SNS等を活用した住民向け広報	-63	4) 草刈り等道路・河川の維持管理	-65	30) 農地・森林等の維持管理	-62
36) SNS等を活用した住民向け広報	-51	2) 防犯・交通安全活動	-30	37) SNS等を活用した住民以外への広報	-63	30) 空き家の利活用等定住者の受入活動	-64	28) サークル等スポーツ活動	-60
21) 担い手の確保・若者の地域活動促進への活動	-50	2) 防犯・交通安全活動	-30	2) 防犯・交通安全活動	-50	11) 買物・通院等の移動支援活動	-64	17) 子育て世代が交流できる場づくり	-59
9) サロン等の高齢者の生きがいづくり活動	-50	15) 夏休みや放課後の子どもの学習支援	-29	9) サロン等の高齢者の生きがいづくり活動	-50	9) サロン等の高齢者の生きがいづくり活動	-60	16) 子育てに関する相談ができる場づくり	-57
34) 婚活対策	-49	19) 地域内の交流促進のためのイベント	-25	31) 散策・収穫体験等地域の魅力体験活動	-50	16) 子育てに関する相談ができる場づくり	-57	10) 高齢者等の見守り・生活支援活動	-56
37) SNS等を活用した住民以外への広報	-42	37) SNS等を活用した住民以外への広報	-23	33) 空き家の利活用等定住者の受入活動	-50	24) 人権意識の醸成	-55	23) 隣近所の付き合いを深める	-54
17) 子育て世代が交流できる場づくり	-41	30) 農地・森林等の維持管理	-22	34) 婚活対策	-50	28) サークル等スポーツ活動	-55	32) 特産品開発等産物を販売する収益活動	-53
24) 人権意識の醸成	-41	24) 人権意識の醸成	-21	5) 公園等の維持管理	-38	18) 昼下校の見守り等子どもの安全を支える活動	-55	24) 人権意識の醸成	-48
4) 草刈り等道路・河川の維持管理	-40	14) 夏休みや放課後の子どもの居場所	-21	6) 環境美化・保全活動	-38	34) 婚活対策	-54	9) サロン等の高齢者の生きがいづくり活動	-46
5) 公園等の維持管理	-38	7) 敬老会等高齢者対象の行事	-20	14) 夏休みや放課後の子どもの居場所	-38	5) 公園等の維持管理	-50	3) 防火・救命等消防活動	-45
30) 農地・森林等の維持管理	-37	8) 健康体操等の健康づくり活動	-20	17) 子育て世代が交流できる場づくり	-38	17) 子育て世代が交流できる場づくり	-50	4) 草刈り等道路・河川の維持管理	-43
28) サークル等スポーツ活動	-35	4) 草刈り等道路・河川の維持管理	-20	35) 広報紙の発行	-38	31) 散策・収穫体験等地域の魅力体験活動	-45	36) SNS等を活用した住民向け広報	-39
23) 隣近所の付き合いを深める	-35	18) 昼下校の見守り等子どもの安全を支える活動	-18	21) 担い手の確保・若者の地域活動促進への活動	-25	21) 担い手の確保・若者の地域活動促進への活動	-43	6) 環境美化・保全活動	-37
18) 昼下校の見守り等子どもの安全を支える活動	-31	20) 世代間交流促進のための活動	-18	19) 地域内の交流促進のためのイベント	-25	23) 隣近所の付き合いを深める	-43	20) 世代間交流促進のための活動	-37
15) 夏休みや放課後の子どもの学習支援	-31	34) 婚活対策	-17	20) 世代間交流促進のための活動	-25	29) 地区内でのスポーツ大会	-42	5) 公園等の維持管理	-32
20) 世代間交流促進のための活動	-28	36) SNS等を活用した住民向け広報	-17	22) 自治会・ふれあい会への加入促進のための取り組み	-25	14) 夏休みや放課後の子どもの居場所	-36	13) 子ども対象の体験事業	-30
14) 夏休みや放課後の子どもの居場所	-27	13) 子ども対象の体験事業	-15	23) 隣近所の付き合いを深める	-25	19) 地域内の交流促進のためのイベント	-36	35) 広報紙の発行	-27
6) 環境美化・保全活動	-27	6) 環境美化・保全活動	-15	24) 人権意識の醸成	-25	27) サークル等芸術文化・生涯学習活動	-35	15) 夏休みや放課後の子どもの学習支援	-26
19) 地域内の交流促進のためのイベント	-26	22) 自治会・ふれあい会への加入促進のための取り組み	-11	30) 農地・森林等の維持管理	-25	30) 農地・森林等の維持管理	-33	37) SNS等を活用した住民向け広報	-22
31) 散策・収穫体験等地域の魅力体験活動	-26	27) サークル等芸術文化・生涯学習活動	-10	32) 特産品開発等産物を販売する収益活動	-25	20) 世代間交流促進のための活動	-29	27) サークル等芸術文化・生涯学習活動	-21
32) 特産品開発等産物を販売する収益活動	-24	17) 子育て世代が交流できる場づくり	-10	4) 草刈り等道路・河川の維持管理	-13	8) 健康体操等の健康づくり活動	-25	7) 敬老会等高齢者対象の行事	-19
27) サークル等芸術文化・生涯学習活動	-22	23) 隣近所の付き合いを深める	-10	7) 敬老会等高齢者対象の行事	-13	35) 広報紙の発行	-23	29) 地区内でのスポーツ大会	-18
29) 地区内でのスポーツ大会	-22	26) 史跡等地域の歴史の保全・管理活動	-5	8) 健康体操等の健康づくり活動	-13	12) クリスマス会等の子どもを対象とした行事	-23	18) 昼下校の見守り等子どもの安全を支える活動	-18
13) 子ども対象の体験事業	-20	28) サークル等スポーツ活動	-4	12) クリスマス会等の子どもを対象とした行事	-13	15) 夏休みや放課後の子どもの学習支援	-23	14) 夏休みや放課後の子どもの居場所	-18
7) 敬老会等高齢者対象の行事	-18	29) 地区内でのスポーツ大会	-4	13) 子ども対象の体験事業	-13	6) 環境美化・保全活動	-20	12) クリスマス会等の子どもを対象とした行事	-18
35) 広報紙の発行	-17	32) 特産品開発等産物を販売する収益活動	0	25) 地域の伝統文化・芸能の継承活動	-13	32) 特産品開発等産物を販売する収益活動	-20	19) 地域内の交流促進のためのイベント	-16
8) 健康体操等の健康づくり活動	-17	31) 散策・収穫体験等地域の魅力体験活動	2	27) サークル等芸術文化・生涯学習活動	-13	25) 地域の伝統文化・芸能の継承活動	-19	26) 史跡等地域の歴史の保全・管理活動	-16
12) クリスマス会等の子どもを対象とした行事	-13	12) クリスマス会等の子どもを対象とした行事	8	29) 地区内でのスポーツ大会	-9	13) 子ども対象の体験事業	-18	14) 夏休みや放課後の子どもの居場所	-14
26) 史跡等地域の歴史の保全・管理活動	-10	35) 広報紙の発行	9	26) 史跡等地域の歴史の保全・管理活動	0	7) 敬老会等高齢者対象の行事	-15	25) 地域の伝統文化・芸能の継承活動	-10
25) 地域の伝統文化・芸能の継承活動	-9	25) 地域の伝統文化・芸能の継承活動	12	28) サークル等スポーツ活動	0	26) 史跡等地域の歴史の保全・管理活動	-10	8) 健康体操等の健康づくり活動	-7

※全体と各階層別のベスト5を色づけ

⑤重要度率と満足度率の相関関係(全体)



※重要度率・満足度率を偏差値に換算

30

⑥自由記述(主な意見)

- 下熊谷ふれあい会の事業全般について
 - ・事業を選択していくことも必要。重要度等を精査して目的に沿った事業展開を。
 - ・参加者は中高年者ばかりで広い世代に至る交流組織にはなっていない。
 - ・効率的、マンネリ化しないようにするために、役員の選出の選出方法の工夫、事業も絞って活動する必要がある。
 - ・一部の部に事業が集中している。部員の若返りが必要。若手がやりたくなる事業を。50歳代の参加が必要。
 - ・地域住民が事業に参画できる仕組み作り及び意識づけ。
 - ・参加者が声をかけて一人でも多く参加してほしい。常会にふれあい会の事業の内容を楽しく語ってPRするとよい。
 - ・高齢者等のケアが大切と思う。
 - ・防災体制、自治会加入強化が必要。
 - ・下熊谷ふれあい会(交流センター)が、地域の方々の「憩いの場」になれば良いと思う。
 - ・SNSを活用した周知方法についても研究してみてもどうか。

- アンケートに回答しての感想・意見
 - ・アンケートは住民の意見を知る重要な資料となるので是非実施した方がよい。
 - ・活動に参加していない場合、事業概要により満足度を評価するのが難しい。
 - ・全地区民を対象とした場合、解答欄に「よくわからない」の項目が必要と思う。
 - ・活動実態を知らないことが多い。参加率や参加者の生の声などを知った上で回答したい。
 - ・今まで活動に参加した人、そうでない人の認識度の違いが、重要度・満足度の1~5のどこに現れるかによって、以降のアンケート調査の設問の仕方の参考にもなるとう。
 - ・既存事業が複数箇所あるので重複箇所への回答が難しい。
 - ・やや質問項目多い。自由記載欄があると記入しやすい人がいるかもしれない。
 - ・どんな活動なら、自分も参加できるのかという枠も作ってはどうか。
 - ・匿名性担保のためにすべて投函にすべき。

31

重要度・満足度アンケートの振り返り(気づき・主な意見)

■ 調査結果からの気づき

① 注力すべき分野の確認

・**重要度と満足度の相関関係から**今後必要となる取り組みは、「防災」「買い物・通院等の移動支援」「高齢者の見守り・生活支援」「サロン等高齢者の生きがいづくり」「担い手の確保・若者の地域活動促進」「子育てに関する相談ができる場づくり」といった項目。**「安心安全」「高齢者支援」「次世代や子育て世代へ向けた事業」の3つが今後の重点項目と言える。**

・防災や高齢者支援については、年代を問わず関心が高い。これまでも重視してきた分野。ニーズに合致していることを確認できた。

② 新たなニーズの発見

・**「子育てに関する相談ができる場づくり」のニーズが高いことが意外。**これまでまったく取り組んでいない分野。気軽に集まって情報交換をする場が求められているかもしれない。**保護者世代との接点という面でも何らかの取り組みを考えると良い。**

・空き家利活用も高い。人口が増えている中で意外な結果。空き家と定住を一緒に聞いているので、定住対策全般という視点か。

・防犯、交通安全活動が上位に来るのも意外。

街灯が少なく整備が必要というニーズでは。

③ 年代別の傾向

・**部員対象のため若年層が少なく、試行調査でははっきりつかめなかった。**

・高齢者支援は若年層でもニーズが高い。

・自治会、ふれあい会への加入促進は、50代以下と60代以上で大きな差がある。若年層の地域への関心の薄さがある。

・SNS活用は若者よりも60代でニーズが高い。

④ ニーズの低い事業項目の取り扱い

・事業が多すぎるという意見もあり、**事業のスクラップも必要。**相関関係図の左下に来る事業は、**廃止も含めた見直しを検討する分野として議論しては。**

・**ニーズは低くても、必要性に気づいていない**という場合もある。自治会やふれあい会への加入促進は重要な取り組みと言える。

・本調査は、事業の廃止というよりも、優先的に取り組むべき事業を見出すためのものと捉えた方がよいのでは。

・相関関係図で、左下に来る事業項目は、設問で具体的事業を上げていない項目が多い。取り組んでいないのでイメージしにくいかも。

32

■ 本調査へ向けて

① 重要度満足度アンケートへの評価

・概ね想定通りの回答が出てきており、**特に、重要度満足度の相関関係図は分かりやすく、説得力がある。全住民アンケートもこの手法で実施するとよい。**

・今回はふれあい会の役職員・部員対象の調査。全住民調査ではまた異なる傾向が出るかもしれない。

・アンケートに実際に答えてみて、集計をしてみte気づくことがある。手間ではあるが、自分たちで集計することも重要。

② アンケートの改良点(既存事業を知らない回答者への対応)

・**既存事業を知らない場合、満足度を答えることが難しい。「どちらともいえない」だけでなく、「わからない」という選択肢を入れると良い。**

事業の認知度を図ることもできる。

・そもそも、「どちらともいえない」という項目はなくてもよいのでは。全般に、「どちらともいえない」の回答が多い。事業を知っている人でも、「どちらともいえない」があることで、考えなくなるのでは。

⇒満足度の選択肢に「わからない」を入れる。

(「どちらともいえない」の取り扱いは要検討。

③ アンケートの改良点(既存事業の記載)

・網掛けで既存事業を記載したが、分野ではなく、既存事業そのものへの重要度や満足度を回答した人もあったよう。

・設問に対応する実施事業は、設問中に記載するのではなく、別の一覧にしてもよいかも。⇒既存事業の記載方法を工夫する。

④ アンケートの改良点(事業項目の表現)

・例えば、「2. 見回り、街灯・標識の整備など、防犯交通安全活動」と表記されてるときに、思い浮かべる事業イメージは個々で異なる。分離した方が分かりやすいものは分離し、似通ったものはまとめるなど工夫が必要。

⇒内容をイメージできる設問になるよう工夫する。

(具体例)

・「2. 見回り、街灯・標識の整備など、防犯・交通安全活動」→「見回り、街灯・標識の整備」「防犯や交通安全の啓発」の2つに分離。

・「27.サークル・教室など、芸術文化・生涯学習関連の活動」と「28.サークル・教室などの地域内のスポーツ活動」は、サークル活動や教室について問う設問として、「サークルや教室(芸術文化・生涯学習・スポーツ活動など)」に統合する。

33

・「36. 電子メールやSNSを活用した住民向け広報」と「37. ブログやHP、SNSを活用した住民以外への広報」は「ブログやHP、SNSを活用した広報」に統合。

⑤アンケートの改良点(追加する事業分野)

・鳥獣被害は下熊谷地区でもあるため、「鳥獣被害対策」を項目に追加する。

⑥アンケートの改良点(その他)

・設問が多すぎる。
・事業への参加の有無についても聞けると良い。

・全住民アンケートは中学生以上を対象とすべきだが、小学生にも別のアンケートなどを取るとよいのでは。

⑦アンケートの活用方法

・**アンケートだけでは判断できないところがある。全住民アンケートを実施した後に、アンケートを題材に、世代別などで意見交換をするとよい。生の意見を聞くことが重要。**

・大人数だと意見が出ないので、小グループで。

・できれば、令和3年度のうちに、アンケートを実施し、それをもとに地区計画策定に向けた世代別等の意見交換を実施することがベスト。

⑧事業の見直しについての学習機会

・他地区で、アンケートをもとにした意見交換の実績あり。具体的な意見交換の方法について、話を聞くとよい。(松笠地区等)

・事業の見直し等について、外部講師から話を聞くことも有効。

重要度・満足度アンケート調査 試行のまとめ

■調査結果から

●今後重点的に取り組むべき事業分野

①防災 ②高齢者支援 ③次世代や子育て世代へ向けた事業

●新たに取り組む事業分野として、子育て支援のニーズがある。

●重要度・満足度の相関関係図は分かりやすく、説得力がある。

■全住民アンケートの実施へ向けて

●取り組む事業分野の優先度を判断するには、本調査はとても有効であり、全住民対象のアンケートにおいても実施すべき。

●特に満足度については、既存事業を知らない場合には回答しづらいため、設問の改良が必要。

例)満足度の選択肢に「わからない」を追加する。

●アンケート結果だけでは、回答者の真意はわからない。アンケート結果をもとにした意見交換の実施が有効。

IV. 今後へ向けて

専門部長会(分野横断会議)

日 時:令和3年3月12日(金)19:00~21:30

会 場:下熊谷交流センター

出席者:正副会長・専門部長・事務局 計14名

内 容:①アンケート結果の報告

②各専門部作成の事業シートをもとに各事業の見直し案を検討



【会議結果】

- 少人数での開催、シートの活用により、これまでの役員会には見られなかった率直な意見交換がなされた。
- 部を横断した事業の合わせ技等、アイデアが出され、具体的にいくつかの事業について、次年度見直しを図ることが確認された。
- 役員を意識改革や次の担い手となる部員への意識づけが必要との意見も。
- アンケートに基づき、住民ニーズの高い事業を重点的に実施していくためにも、事業だけでなく、専門部の再編が必要との意見も。



分野横断による会議は有効！

最終報告会(予定)

日 時:令和3年3月26日(金)19:00～

会 場:下熊谷交流センター

出席者:下熊谷ふれあい会役職員(役員会)

【提案内容】

- ①今後も、各専門部での意見交換に基づく事業シートの作成と、これを持ち寄った部長会議を毎年度実施していくこと。
- ②令和3年度に全住民アンケートを実施し、この結果をもとに、年代別等での意見交換を実施し、結果を次期地区計画に反映させること。

★上記を確認し、下熊谷ふれあい会の事業の見直しの慣習化とニーズに基づいた事業実施につなげる！

★地域経営カレッジの成果を活かせるかどうかは今後の取り組みにかかっている！